

200834041A

厚生労働省特定疾患

門脈血行異常症調査研究班
平成二十年度研究報告書

平成21年3月

班長 森安史典

厚生労働省特定疾患

門脈血行異常症調査研究班
平成二十年度研究報告書

平成 21 年 3 月

班 長 森 安 史 典

序 文

昭和59年、厚生省特定疾患「門脈血行異常症」調査研究班が編成された。これは、昭和50年以来、厚生省特定疾患「特発性門脈圧亢進症」調査研究班が検討を行っていた、特発性門脈圧亢進症 (IPH) に、肝外門脈閉塞症 (EHO) およびバッドキアリ症候群 (BCS) を対象疾患として加え、再編成されたものである。

当研究班は、亀田治男 (昭和59年～同63年)、小幡裕 (平成元～同3年)、二川俊二 (平成4～同7年)、杉町圭蔵 (平成8～同13年)、橋爪誠 (平成14～同19年)、森安史典 (平成20年～) の各班長に引き継がれ、今日に至っている。

この間、多くの班員、研究者の努力により、これらの疾患の病院、病態、病理、疫学、診断、治療、および予後などについて精力的に研究が推進された。特に IPH では、肝硬変症との差異、および IPH 特有の門脈血行動態が明らかになった。病因に関しては、末梢リンパ球 Autologous mixed lymphocyte reaction (AMLR) の低下、脾内リンパ球 T 細胞サブセットの変化など、自己免疫異常を示唆する病態が明らかになってきた。

さらに、3 疾患の病因・病態の解明は、分子生物学的解析や遺伝子解析を行うことで、新たな展開を迎えた。マイクロアレイなどの最先端の分子生物学的手法を使い、IPH には、Connective tissue growth factor (CTGF) が過剰発現し、Heme oxygenase-1 (HO-1) の発現が低下していることを発見した。また、ネパール、カナダにおける BCS の検討を行い、国際間比較もなされた。

一方、社会的には、平成10年度に、BCS が治療研究対象疾患に採択されたことは、患者にとって大きな福音となった。平成12年12月には、「門脈血行異常症の診断と治療 (2001年)」を基準として設定し、昨年度これを改訂し「門脈血行異常症の診断と治療のガイドライン (2007年)」として新基準を作成することができたのは大きな成果である。

未だ門脈血行異常症 3 疾患の病因は不明であるが、IPH における免疫異常や血管増殖因子の関与、BCS、EHO における凝固線溶系の異常と遺伝子異常が次第に明らかと成りつつあり、研究は着実に進歩している。

最新の分子生物学的、遺伝子学的アプローチのみならず、臨床的には、医用画像工学など、幅広い手法で研究をつづけることで、更なる原因解明ができるものと期待される。そして、これらの原因解明の成果を、臨床の場で、診断・治療に応用することが今後の課題である。

本年度も、分子生物学的手法を駆使した基礎的なものから臨床研究まで、幅広い研究がなされた。基礎的分野では、IPH で生ずる門脈血管内皮細胞の EndMT には、血中 TGF- β 1 濃度の上昇が関与していること、JAK2 V617F 変異は欧米人症例と異なり、BCS の原因リスクにならないこと、蛋白ネットワークの臨床プロテオーム解析により、IPH 肝臓において151の蛋白が発現され、IPH に共通の蛋白発現種を認めたことなどがあきらかにされた。

一方、臨床分野では、FICE(Flexible Imaging Color Enhancement) を併用した内視鏡により、食道静脈瘤の診断能が向上したこと、造影超音波画像のコンピューター自動計測により、肝硬変における肝内門脈枝の分岐角度が増大していること、脾臓摘出術は IPH 症例に対し、有効な治療法であると考えられたが、脾臓摘出術後の門脈血栓に関しては、その発生率が高く注意が必要なこと、門亢症では、胃粘膜における過剰な NO 産生が COX-2 の代償性の発現誘導を阻害し、胃粘膜の脆弱性の一因となっていること、IPH における遠位脾腎静脈吻合術は胃食道静脈瘤の治療成績は良好であったこと、などが

報告された。

今年度も、ここに研究成果をとりまとめることができ、各疾患の病因、病態の解明に貢献することができたと確信している。

最後に、厚生労働省保健医療局疾病対策課のご指導、ご支援に厚くお礼を申し上げるとともに、本研究班の班員、研究協力者の先生方、ならびに関係諸氏に深く感謝する次第である。

平成21年3月

厚生労働省難治性疾患克服研究事業
門脈血行異常症に関する調査研究

班長 森 安 史 典

目 次

序 文

I. 総括研究報告

門脈血行異常症に関する調査研究

東京医科大学消化器内科 森安 史典 … 1

II. 分担研究報告

【前期】

1. 特発性門脈圧亢進症の病因・病態に関する解析と動物モデルの作製
大阪市立大学大学院医学研究科核医学 塩見 進 … 17
2. Budd-Chiari 症候群の病理学的研究
—肝細胞癌の発癌機序における酸化ストレスに関する検討計画—
久留米大学医学部病理学教室 鹿毛 政義 … 21
3. 門脈圧亢進症における肝内の血管内皮細胞の関与
—Endothelial to mesenchymal transition (EndMT) の観点から
TGF- β が門脈圧亢進症の病態に及ぼす影響
金沢大学大学院医学系研究科形態機能病理学 中沼 安二 … 23
4. バッドキアリ症候群機序解明のためのイメージベースド CFD による流体力学的解析
九州大学大学院医学研究院災害・救急医学 橋爪 誠 … 26
5. 特発性門脈圧亢進症における免疫異常 —FOX-P3遺伝子多型との関連—
昭和大学内科学講座消化器内科学部門 馬場 俊之 … 30
6. 門脈血行異常症における消化管粘膜脆弱性に関する分子生物学的機序についての研究
—Nitric oxide (NO) およびシクロオキシゲナーゼ(COX)の門脈圧亢進症性胃症との関わり—
九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科 前原 喜彦 … 32
7. 門脈血栓症発症における遺伝的要因解析
名古屋大学医学部 小嶋 哲人 … 37
8. 全国検体保存センターの再編および運営
九州大学大学院医学研究院災害・救急医学 橋爪 誠 … 39
9. バッド・キアリ症候群患者の臨床疫学特性 —臨床調査個人票を用いた解析(計画)—
大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学 廣田 良夫 … 41
10. IPH における門脈血栓の病態と臨床的意義について
千葉県立衛生短期大学 松谷 正一 … 43

11. 造影超音波を用いた肝内血行異常の検討
東京医科大学消化器内科 森安 史典 … 46
12. IPH における門脈血行動態と長期予後との関連について
千葉県立衛生短期大学 松谷 正一 … 48
13. 再発性食道静脈瘤診断における FICE 併用経鼻内視鏡検査の位置づけ
東京医科大学消化器内科 森安 史典 … 51
14. 門脈血栓症の治療：AT-III 製剤が有効であった 1 例
大分大学第一外科 北野 正剛 … 53
15. Budd-Chiari syndrome の拡大再建術 —右心房までの拡大再建術—
琉球大学医学部機能制御外科学分野 國吉 幸男 … 56
16. 門脈の一時的閉塞に関する研究
長崎大学大学院 移植・消化器外科 兼松 隆之 … 59
17. 脾摘術後の門脈血栓ハイリスク症例に対する AT-III 製剤投与の有用性についての検討
九州大学大学院消化器・総合外科 前原 喜彦 … 61
18. 左葉グラフトを用いた成人間生体肝移植における門脈血流量調節の必要性
順天堂大学肝胆膵外科 川崎 誠治 … 64
19. ミクリッツ病に合併した門脈圧亢進症の例
順天堂大学肝胆膵外科 川崎 誠治 … 65

【後期】

1. 肝硬変における肝と脾の血小板の局在に関する研究
久留米大学病理学 鹿毛 政義 … 67
2. 門脈圧亢進症脾における marginal zone の変化について
久留米大学病理学 鹿毛 政義 … 70
3. 質量分析を用いた IPH 肝組織特異タンパクの解析
大阪市立大学大学院医学研究科核医学 塩見 進 … 74
4. 門脈血行異常症における JAK2 V617F 変異解析
名古屋大学医学部 小嶋 哲人 … 77
5. 特発性門脈圧亢進症における免疫異常
—FOX P3 遺伝子多型との関連—
昭和大学内科学講座消化器内科学部門 馬場 俊之 … 81
6. IPH における TGF- β アンタゴニスト BMP7 の発現とその役割
金沢大学医薬保健研究域医学系形態機能病理学 中沼 安二 … 83
7. バッドキアリ症候群機序解明のためのイメージベースド CFD による流体力学的解析
九州大学大学院医学研究院災害・救急医学 橋爪 誠 … 87

8. バッド・キアリ症候群の二症例 —肝静脈血流速度の意義について	千葉県立衛生短期大学 松谷 正一 … 90
9. Budd-Chiari 症候群患者の臨床疫学特性 —臨床調査個人票による解析—	大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学 廣田 良夫 … 96
10. Budd-Chiari 症候群の発症様式・病態における地域間相違に関する検討 (沖縄県内患者 vs 沖縄県外患者)	琉球大学医学部 機能制御外科 國吉 幸男 …100
11. 食道静脈瘤診断における FICE 併用内視鏡検査の有用性	東京医科大学消化器内科 森安 史典 …103
12. 造影超音波を用いた肝微小循環の血行動態の解析に関する研究	東京医科大学消化器内科 森安 史典 …106
13. 経内視鏡的マイクロバスキュラードップラー血流計による 生体肝移植前後の食道静脈瘤の評価に関する研究	順天堂大学肝胆膵外科 川崎 誠治 …109
14. 生体肝移植における門脈血行異常とその予後 に関する研究	長崎大学大学院 移植・消化器外科 兼松 隆之 …111
15. 特発性門脈圧亢進症 (IPH) の長期成績についての検討 (脾臓摘出術の治療効果) に関する研究	九州大学大学院消化器・総合外科 前原 喜彦 …113
16. 特発性門脈圧亢進症における術後門脈血栓と予後の関係	大分大学第一外科 北野 正剛 …116
17. 特発性門脈圧亢進症におけるシャント手術と直達手術の比較検討	日本医科大学 外科 田尻 孝 …120
III. 研究成果の刊行に関する一覧表	……………123
IV. その他	
平成20年度門脈血行異常症班会議総会プログラム第1回	……………129
平成20年度門脈血行異常症班会議総会プログラム第2回	……………133
門脈血行異常症の診断と治療のガイドライン	……………136
平成20年度門脈血行異常症調査研究班名簿	……………143

I. 總括研究報告

門脈血行異常に関する調査研究

主任研究者 森安 史典（東京医科大学消化器内科教授）

研究要旨

本研究班では、原因不明で門脈血行動態の異常をきたす、特発性門脈圧亢進症（IPH）、肝外門脈閉塞症（EHO）、パッドキアリ症候群（BCS）を対象疾患として、その病因病態解明のため、1）病理学的・分子生物学的検討、2）臨床的検討、3）疫学的検討、の各側面から研究を行った。基礎的分野では最新の分子生物学的手法を用いることで、門脈血行異常症の病因病態をより深く解明することができた。また、臨床分野では、門脈血行異常症の全国疫学調査が10年ぶりに行われ、本邦におけるIPH、EHO、BCSの現状が明らかにされた。さらに門脈血行異常症における治療成績・予後に関する全国調査も新たに行い、治療の現状が明らかになった。そして、これらの結果をもとに、当研究班で作成された基準「門脈血行異常症の診断と治療（2001年）」を改訂し、「門脈血行異常症の診断と治療のガイドライン（2007年）」として新基準を作成した。

分担研究者

橋爪 誠（九州大学大学院医学研究院）
兼松隆行（長崎大学大学院 移植・消化器外科）
川崎誠治（順天堂大学肝胆外科）
北野正剛（大分大学第一外科）
前原喜彦（九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科）
馬場俊之（昭和大学内科学講座消化器内科学部門）
塩見 進（大阪市立大学大学院医学研究科核医学）
小嶋哲人（名古屋大学医学部）
國吉幸男（琉球大学医学部 機能制御外科）
廣田良夫（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学）
中沼安二（金沢大学医薬保健研究域医学系形態機能病理学）
鹿毛政義（久留米大学医学部病理学教室）
松谷正一（千葉県立衛生短期大学）

A. 研究目的

本研究班の研究目的は、原因不明で門脈血行動態の異常を来す、特発性門脈圧亢進症（IPH）、肝外門脈閉塞症（EHO）、パッドキアリ症候群（BCS）などを対象疾患として、これらの疾患の病因および

病態の追求とともに、患者発生状況、治療法、予後などの実態を正確に把握し、予後の向上のために診断、治療上の問題点を明らかにするところにある。

B. 研究方法

IPH、EHO、BCSの病因病態の解明のため、以下の項目に研究課題を分担して検討を行った。

- 1）病理学的・分子生物学的検討
- 2）臨床的検討
- 3）疫学的検討

なお、各項目の検討に際しては、当疾患が極めて稀である状況から、検体保存センターの症例及び検体を有効に活用した。また、特に病理学的検討及び分子生物学的検討では、国際間比較のため本邦だけではなく国外の症例に関しても積極的に研究対象としている。

（倫理面への配慮）

研究対象者から血液を採取して遺伝子異常の検討を行うにあたり、ヒトゲノム・遺伝子解明研究に関する倫理指針（平成13年3月29日文部科学省・厚生

労働省・経済産業省告示第1号)を遵守するとともに、各大学における倫理委員会の承諾を得た。

C. 研究結果および考察

【病理学的・分子生物学的検討】

馬場らは、特発性門脈圧亢進症 (IPH) における免疫異常の関与を検討している。IPH では、肝、脾組織内および末梢血において制御性 T 細胞 (Treg) が減少しており、免疫亢進状態が惹起されている可能性を示唆している。

塩見らは、IPH 肝における特異的蛋白の検索と、蛋白ネットワークの解析質量分析による臨床プロテオーム解析を導入し、検討を行っている。IPH 肝臓において発現が同定された蛋白数は151であり、IPH 2症例に共通の蛋白発現種を認めたが、Hepatic system disease の term での解析では、特徴的なネットワーク関係を認めなかった。

小嶋らは、門脈血行異常症の一つである、バッドキアリ症候群 (BCS) の原因として挙げられている、血栓性素因や後天性疾患としての骨髄増殖性疾患、とくに真性多血症について検討している。検体保存センターに収集された日本人の BCS ならびに、肝外門脈閉塞症 (EHO) 症例において、JAK2 V617F 変異は検出されなかった。その結果から、日本人における BCS の原因リスクは、欧米人症例と異なり JAK2 V617F 変異はほとんどないことが明らかとなった。

中沼らは、TGF- β アントゴニストである bone morphogenic protein-7 (BMP7) に着目し、IPH における発現とその役割を検討した。IPH 患者の血清中の BMP7 濃度は、健康人と同程度の低いレベルであり、BMP7 は血管内皮細胞の EndMT 抑制効果を有することが示された。IPH では門脈血管内皮細胞の EndMT は可逆性的変化であり、EndMT の抑制がIPH の治療標的となる可能性が示唆された。また、IPH で生ずる門脈血管内皮細胞の EndMT には、血中 TGF β 1 濃度の上昇が関与していると考えられた。

鹿毛らは、門脈圧亢進症の脾臓の病理学的検討を

行っている。白脾髄の最外層に位置する marginal zone (以下 MZ) は、脾臓の免疫学的機能を決定づける最も特徴的な領域の一つであり、非肝硬変例における脾 MZ は、CD27 陽性 B 細胞が層状に配置する構造をとる。一方、肝硬変脾においては、約半数の症例で MZ の萎縮、MZ B 細胞の減少が認められ、両者における脾腫の役割の相違を指摘した。

また鹿毛らは、肝硬変症例の肝および脾における血小板の分布と数的変化について検討している。脾腫を伴う肝硬変症例においては有意に脾臓単位面積当たりの血小板数が減少していた。肝においては、血小板は炎症の強い症例において、よりびまん性に分布する傾向がみられた。肝硬変では、門脈圧亢進にともない血小板の分布に変化が見られるとしている。

橋爪らは、検体保存センターの運営について報告した。当研究班では、三疾患の病因・病態を解明することを目標とし、平成9年に検体登録制度および全国検体保存センターを設立し、検体保存センターの再編 (新検体保存センターの設置) も行っている。新検体保存センターの設置後には、九州大学大学院消化器・総合外科と長崎大学大学院移植・消化器外科より症例登録がなされ、平成20年3月現在で新たに計20症例の検体登録がなされた。

【臨床的検討】

森安らは、食道静脈瘤の経鼻内視鏡検査による検討を行っている。任意の光波長を分光し、それを画像処理・再構築することを可能とした FICE (Flexible Imaging Color Enhancement) を併用した内視鏡により、食道静脈瘤の診断能を向上させることが出来たとしている。

また森安らは、第2世代の超音波造影剤と、超音波の造影手法である Micro flow imaging (MFI) を用い、肝硬変肝の微小な門脈枝を描出し、その変化を定量的に解析している。MFI 画像から血管構造のみを抽出し、細線化処理を行い、血管分岐角度および血管分岐間距離をコンピューターにより自動計測した。分岐間距離は両者に明らかな有意差は認められなかったが、分岐角度では硬変肝の方が有意に

大きい傾向であった。

兼松らは、生体肝移植前後に門脈の血行異常を呈した症例を示し、その治療成績や予後に関する因子を検討した。機械的因子以外（拒絶など）による病態で、術後に血行異常の再発がみられた症例の予後は不良であり、これらの周術期管理の工夫が今後の課題であると指摘している。

川崎らは、門脈圧亢進症の肝移植術について検討した。成人間生体肝移植において移植後の腹水量は、移植後の門脈圧に相関し、門脈圧が高い症例（25mmHg以上）では脾動脈結紮により、移植後の難治性腹水を軽減させる可能性を示した。

北野らは、門脈圧亢進症における脾臓摘出術後に合併し、門脈圧亢進症や肝機能の悪化の原因となる門脈血栓症の治療法について研究した。術後の門脈血栓症の予防のために、ヘパリンを投与したにも関わらず、広範な門脈血栓症を発症した症例を報告し、血栓溶解にAT-III製剤の併用が有効であったと報告した。門脈圧亢進症における脾臓摘出術症例において、ヘパリンなどの抗凝固薬を予防的に投与しても、門脈血栓症の予防策としては必ずしも十分でなく、必要に応じてヘパリンにAT-III製剤を加えるべきであることなど、術後の門脈血栓症の治療に関する示唆に富む報告をした。

また、北野らは、IPHを対象として、門脈血栓の有無と合併症や予後の関係について検討した。門脈血栓の有無と累積生存率には関連を認めず、また、門脈血栓の有無と年齢、性別、静脈瘤出血、消化管出血、追加治療について、いずれも関連を認めなかった。脾臓摘出術後のIPH症例における術後門脈血栓は、合併症や予後に関与しないことを示した。

前原らは、IPH症例に対し脾臓摘出術を施行した症例の長期予後を調べ、IPHにおける脾摘術の有効性を検討した。脾臓摘出後の全例で、肝機能と汎血球減少の改善を認めた。術後合併症に関しては、門脈血栓、脾液漏を認めた。脾臓摘出術はIPH症例に対し、有効な治療法であると考えられたが、脾臓摘出術後の門脈血栓に関しては、その発生率は高く、注意が必要であると考察している。

また前原らは、門脈圧亢進症患者における消化管

粘膜の脆弱性について検討している。その脆弱性のメカニズムとして、門脈圧亢進症胃粘膜におけるNitric Oxide(NO)の過剰な産生が、その原因の一つである。COX-1抑制下において、正常胃粘膜において、COX-2の代償性の発現により粘膜傷害は生じないが、門亢症患者の胃粘膜においては、COX-2の発現が低下しており、結果として胃粘膜障害を生じることを明らかにした。また、NO阻害剤であるL-NAMEの投与によりCOX-2の発現が回復し、粘膜障害が改善した。このことから、門亢症では、胃粘膜における過剰なNOがCOX-2の代償性の発現誘導を阻害し、胃粘膜の脆弱性の一因となっていることを明らかにした。

田尻らは、特発性門脈圧亢進症における食道胃静脈瘤に対し、シャント手術として遠位脾腎静脈吻合術、直達手術としてHassab手術や食道離断術を施行し、その有効性を検討している。その結果、特発性門脈圧亢進症における食道胃静脈瘤に対する治療法として、遠位脾腎静脈吻合術では再発例は無く、治療成績は良好であったと報告している。

國吉らは、Budd-Chiari症候群(BCS)手術療法について検討している。BCS患者に対して直視下根治術を施行したが、それを、沖縄県内患者と県外患者に群別し、その発症様式・病態における地域間の相違に関する検討を行った。手術時年齢は県外患者群で有意に若かく、病期期間は県外患者群で短い傾向にあり、さらに急性発症が高率であった。術前の凝固異常は県外患者群において高率に認められ、術前画像検査では全肝静脈閉塞、肝静脈の狭小化が県外患者群で多い傾向にあった。術後の開存肝静脈数は県外患者群で有意に少なかったが、術後肝機能改善は両群間に差はなかったとしている。

松谷らは、バッド・キアリ症候群の肝静脈の血行動態を検討した。肝静脈の血流速度は、BCSでは低下し、呼吸性変動も軽度であった。また、下大静脈開通術後には血流速度の増加がみられた。肝静脈血流速度は、バッド・キアリ症候群の病態や重症度の指標として、治療適応や治療時期判定への応用が可能としている。

また松谷らは、IPHにおける門脈血栓の病態と

臨床的意義について検討した。IPH では肝硬変症に比べて門脈血栓の頻度が高いこと、IPH の死亡例では血栓合併例が多いことが特徴であった。また血行動態の検討から門脈血栓は食道静脈瘤への負荷因子となることを明らかにした。さらに IPH では血栓非合併例においても、血栓関連の血液分子マーカーである D-ダイマー値の軽度上昇がみられたことから、IPH における過凝固状態の可能性を示唆している。

【疫学的検討】

廣田らは、2001年度から2007年度の間に特定疾患医療受給者証の交付を受けた Budd-Chiari 症候群患者の、電子入力された臨床調査個人票の情報を利用し、臨床疫学特性を検討した。受診状況、最近の経過を集計解析した結果、Budd-Chiari 症候群における予後不良例は比較的少ない可能性が示された。しかし、現行の臨床調査個人票の登録システムでは、更新しなかった患者の理由を把握することはできない。それ故、更新しなかった患者の理由が病状と関連している場合には、ADL や予後の解析結果の解釈に影響を及ぼす可能性があるとして報告した。

D. 結 論

最新の分子生物学的手法を用いることで、門脈血行異常症 (IPH、EHO、BCS) の病因病態をより深く解明することができた。

今後、さらなる病因・病態の解明を進め、門脈血行異常症 3 疾患の根本的治療につなげていくのが今後の課題である。

E. 健康危険情報

該当無し。

F. 研究発表

1. 論文発表

1) Tokuyama H, Hagi T*, Mattarollo SR*,

Morley J*, Wang Q*, Fai-So H*, Moriyasu F, Nieda M*, Nicol AJ* V gamma 9 V delta 2 T cell cytotoxicity against tumor cells is enhanced by monoclonal antibody drugs- rituximab and trastuzumab Int J Cancer 122(11): 2526-2534, 2008

2) Shiraishi J*, Sugimoto K, Moriyasu F, Kamiyama N*, Doi K* Computer-aided diagnosis for the classification of focal liver lesions by use of contrast-enhanced ultrasonography Med Phys 35(5): 1734-1746, 2008

3) Sugimoto K, Moriyasu F, Kamiyama N, Metoki R, Yamada M, Imai Y, Iijima H* Analysis of morphological vascular changes of hepatocellular carcinoma by microflow imaging using contrast-enhanced sonography Hepatol Res 38(8): 790-799, 2008

4) Liu GJ, Moriyasu F, Hirokawa T, Rexiati M, Yamada M, Imai Y Optical microscopic findings of the behavior of perflubutane microbubbles outside and inside Kupffer cells during diagnostic ultrasound examination Invest Radiol 43(12): 829-836, 2008

5) 小熊 一豪、森安 史典 "超音波 RF 信号の解析による慢性肝炎・肝硬変の線維化の評価" 東京医科大学雑誌 66(4): 505-512, 2008

6) 飯島 尋子*, 齊藤 正紀*, 吉川 昌平*, 東浦 晶子*, 脇 英彦*, 森安 史典, 西口 修平*, 肝脂肪沈着の病態と画像 肝脂肪沈着の臨床: Non-alcoholic Fatty Liver Disease (NAFLD) の造影超音波診断 肝胆膵画像 10(1):53-57, 2008

7) 光法雄介*, 田中真二*, 松村 聡*, 村形綾乃*, 藍原有弘*, 平良 薫*, 工藤 篤*, 中村典明*, 伊東浩次*, 有井滋樹*, 飯島尋子*, 森安史典 Contrast-Enhanced US Imaging ソナゾイドによる造影超音波検査のノウハウ 術中ソナゾイド造影超音波のポイント(使用装置Xario) INNERVISION 23(2):76-77, 2008

8) 森安史典 Sonazoid 造影超音波検査の現状と

- 未来：造影超音波の基礎 映像情報Medical 40(5):495-503, 2008
- 9) 河合 隆、山岸哲也、酒井義浩、森安史典 細径(経鼻)内視鏡検査による観察の要点 Gastroenterological Endoscopy 50(7):1622-1634, 2008
 - 10) 河合 隆、山岸哲也、八木健二、片岡幹統、川上浩平、柳沢京介、糸井隆夫、酒井義浩、森安史典、高木 融、青木達哉 経鼻内視鏡は本当に楽なのか? : 今後の経鼻内視鏡細径スコープに期待する改良点は? 消化器内視鏡 20(4): 483-489, 2008
 - 11) 今井康晴、森安史典 肝臓病を見つける: 画像診断①超音波 からだの科学258 肝臓病のすべて: 30-33, 2008
 - 12) 齋藤和博、西尾龍太、柿崎 大、徳植公一、荒木洋一、勝山宏章、目時 亮、森安史典 ここまできた造影 MRI&MRA: Gd-EOB-DTPA (EOB/ブリモビスト) の臨床応用INNERVISION 23(9):21-23, 2008
 - 13) 垣見和宏 B型肝炎ウイルスに対する細胞性免疫応答 肝臓病学の進歩(第29・30回肝臓研究会/肝臓研究会30回記念会) 30: 48-54, 2008
 - 14) 河合 隆、八木健二、山岸哲也、原 弥子、片岡幹統、川上浩平、柳澤京介、酒井義浩、森安史典、逢坂由昭、高木 融、青木達哉 "細径経鼻内視鏡の有用性と問題点" 新薬と臨床 57(8): 1322-1325, 2008
 - 15) 山田昌彦、森安史典 最新の肝胆膵の3Dイメージ: 肝臓の造影超音波—3Dイメージから4Dイメージ—胆と膵29臨時増刊特大号: 1173-1180, 2008
 - 16) 市村茂輝、古市好宏、目時 亮、宮田祐樹、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、杉本勝俊、清水雅文、柳澤京介、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典、河合 隆 十二指腸静脈瘤出血に対し、内視鏡にて透明フードを装着しCA注入法を行った1例 Progress of Digestive Endoscopy 72(2):80-81, 2008
 - 17) 鹿毛政義*、森安史典 第14回日本門脈圧亢進症学会総会、司会統括 ワークショップ2 門脈圧亢進症の病態生理 日本門脈圧亢進症学会雑誌 13(2): 128, 2008
 - 18) 藤原研司*(司会)、岡上 武*、佐田通夫*、森安史典、金子周一* 座談会: 肝癌治療における新たな展開—免疫細胞療法の意義— FOURTH 免疫細胞療法学術情報誌 2(2): 3-7, 2008
 - 19) 森安史典 第2回ソナゾイド研究会報告集 巻頭言 ソナゾイド造影超音波検査の進歩 INNERVISION 23(10): 2, 2008
 - 20) 今井康晴、佐野隆友、村嶋英学、市村茂輝、平良淳一、目時 亮、杉本勝俊、古市好宏、山田昌彦、中村郁夫、森安史典 ソナゾイドを用いた肝腫瘍の造影超音波検査<第23回超音波ドブラ研究会>: 肝腫瘍のソナゾイド造影超音波検査—レボビストとの比較 Rad Fan 6(10): 29-31, 2008
 - 21) 脇 英彦*、東浦晶子*、山平正浩*、肥塚明日香*、柴田陽子*、橋本眞里子*、吉川昌平*、池田直人*、西口修平*、佐々木俊一*、森安史典、飯島 尋子* ソナゾイドを用いた肝腫瘍の造影超音波検査<第23回超音波ドブラ研究会>: Sonazoid による肝動脈、門脈、肝静脈、肝実質のTime Intensity Curveの検討 Rad Fan 6(10): 9-11, 2008
 - 22) 森安史典 監修 メディカルトリビューン、肝血流動態イメージ研究会シンポジウム記録集: 肝癌の組織学的分化度診断と生物学的悪性度の予知、2008
 - 23) 杉本勝俊、白石順二*、土井邦雄*、森安史典、神山直久* 造影超音波におけるコンピューター支援診断(CAD)—肝細胞癌の分化度診断を中心に—メディカルトリビューン、肝血流動態イメージ研究会シンポジウム記録集: 肝癌の組織学的分化度診断と生物学的悪性度の予知、6-10, 2008
 - 24) 森安史典 肝臓の画像診断—現状と将来展望: 造影超音波による肝癌の診断 CLINICIAN 55 (574) 造影超音波: 15-26, 2008

- 25) Mizuho MATSUBARA, Masao WATANABE, Satoshi WATANABE, Kozo KONISHI, Shohei YAMAGUCHI, Makoto HASHIZUME, Fluid Dynamic Study on Budd Chiari Syndrome: Sensitivity Study of Vessel Reconstruction on Image-Based Simulation, *Journal of Biomechanical Science and Engineering*, 2(2): pp.69-80,2007
- 26) Yoshida N, Kawasaki S. Evaluation of a non-shunting operation by measurement of the blood flow velocity using transendoscopic microvascular Doppler sonography for esophageal and gastric varices. *Hepatology Research*, vol.24(1), p60-71, 2002
- 27) Kawano Y, Sasaki A, Kai S, Endo Y, Iwaki K, Uchida H, Shibata K, Ohta M, Kitano S. Short- and long-term outcomes after hepatic resection for hepatocellular carcinoma with concomitant esophageal varices in patients with cirrhosis. *Ann Surg Oncol* 2008;15:1670-1676.
- 28) Iwaki K, Ohta M, Ishio T, Kai S, Iwashita Y, Shibata K, Himeno K, Seike M, Fujioka T, Kitano S. Metastasis of hepatocellular carcinoma to spleen and small intestine. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 2008;15:213-219.
- 29) Endo Y, Ohta M, Shibata K, Kai S, Iwaki K, Uchida H, Ogata M, Ikewaki J, Kashima K, Kitano S. Splenectomy for hypersplenism caused by adult T-cell leukemia: Report of a case. *Surg Today* 2008;38:1148-1151.
- 30) 太田正之、甲斐成一郎、江口英利、遠藤裕一、北野正剛、食道静脈瘤 救急医学 2008;32 : 628-633.
- 31) 北野正剛、太田正之 脾臓の疾患、北島政樹・藤村龍子編：系統看護学講座 別巻2・臨床外科看護各論、172-178、医学書院、東京
- 32) Sakaki M, et al. Intrahepatic status of regulatory T cells in autoimmune liver diseases and chronic viral hepatitis. *Hepatology Res* 38: 354-361, 2007
- 33) Morikawa H, Tamori A, Nishiguchi S, Enomoto M, Habu D, Kawada N, Shiomi S. Expression of connective tissue growth factor in the human liver with idiopathic portal hypertension. *Mol Med* 2007 ; 13. 240-245.
- 34) Y Fujimori, H Okimatsu, T Kojima, et al. : Molecular defects associated with antithrombin deficiency and dilated cardiomyopathy in a Japanese Patient. *Inter Med*. 47(10) : 925-931, 2008
- 35) T Kojima and H Saito: Hypercoagulable States. K. Tanaka, and E.W. Davie, eds; *Recent Advances in Thrombosis and Hemostasis* 2008. i.507-520, Springer, printed in Japan, 2008.
- 36) S Sobue, S Nemoto, M Murakami, H Ito, A Kimura, S Gao, A Furuhashi, A Takagi, T Kojima, M Nakamura, M Ito, M Suzuki, Y Banno, Y Nozawa, T Murate: Implications of sphingosine kinase 1 expression level for the cellular sphingolipid rheostat: relevance as a marker for daunorubicin sensitivity of leukemia cells. *Int J Hematol*, 87(3): 266-275, 2008.
- 37) T Nakayama, T Matsushita, K Yamamoto, N Mutsuga, T Kojima, A Katsumi, N Nakao, JE Sadler, T Naoe, H Saito: Identification of amino acid residues responsible for von Willebrand factor binding to sulfatide by charged-to-alanine-scanning mutagenesis. *Int J Hematol*, 87(4): 363-370, 2008.
- 38) T Kashiwagi, T Mstsushita, Y Ito, K Hirashima, N Sanda, Y Fujimori, T Yamada, K Okumura, A Takagi, T Murate, A Katsumi, J Takamatsu, K Yamamoto, T Naoe, T Kojima: L1503R is a member of group I mutation and has dominant-negative effect on secretion of full-length VWF multimers: an analysis of two patients with type 2A von Willebrand disease. *Haemophilia* 14(3), 556-563, 2008.

- 39) F Ozlu, M Kyotani, E Taskin, K Ozcan, T Kojima, T Matsushita, H Yapicioglu, A Takagi, I Saşmaz, M Satar, and N Narli: A neonate with homozygous protein C deficiency with a homozygous Arg178Trp mutation. *J Pediatr Hematol Oncol* 30: 608-611, 2008.
- 40) Y Fujimori, H Okimatsu, T Kashiwagi, N Sanda, K Okumura, A Takagi, K Nagata, T Murate, A Uchida, K Node, H Saito and T Kojima: Molecular Defects Associated with Antithrombin Deficiency and Dilated Cardiomyopathy in a Japanese Patient. *Inter Med.* 47(10): 925-931, 2008.
- 41) K Okumura, Y Fujimori, A Takagi, T Murate, M Ozeki, K Yamamoto, A Katsumi, T Mstushita, T Naoe, and T Kojima: Skewed X chromosome inactivation in fraternal female twins results in moderately severe and mild haemophilia B. *Haemophilia* 14(5), 1088-1093, 2008.
- 42) S Sobue, M Murakami, Y Banno, H Ito, A Kimura, S Gao, A Furuhashi, A Takagi, T Kojima, M Suzuki, Y Nozawa, T Murate: v-Src oncogene product increases sphingosine kinase 1 expression through mRNA stabilization: alteration of AU-rich element-binding proteins. *Oncogene* 27(46), 6023-6033, 2008.
- 43) R Tanizaki, A Katsumi, H Kiyoi, S Kunishima, T Iwasaki, Y Ishikawa, M Kobayashi, A Abe, T Matsushita, T Watanabe, T Kojima, K Kaibuchi, S Kojima, T Naoe. Mutational analysis of SOS1 in acute myeloid leukemia. *Int J Hematol.* 88(4):460-462, 2008.
- 44) T Iwasaki, A Katsumi, H Kiyoi, R Tanizaki, Y Ishikawa, K Ozeki, M Kobayashi, A Abe, T Matsushita, T Watanabe, M Amano, T Kojima, K Kaibuchi, T Naoe. Prognostic implication and biological roles of RhoH in acute myeloid leukaemia. *Eur J Haematol.* 81(6):454-60, 2008.
- 45) Sato Y, Sawada S, Nakanuma Y. Fibulin-5 is involved in phlebrosclerosis of major portal vein branches associated with elastic fiber deposition in idiopathic portal hypertension. *Hepatol Res* 2008;38:166-73.
- 46) Kudo M, Zheng RQ, Kim SR, Okabe Y, Osaki Y, Iijima H, Itani T, Kasugai H, Kanematsu M, Ito K, Usuki N, Shimamatsu K, Kage M, Kojiro. Diagnostic accuracy of imaging for liver cirrhosis compared to histologically proven liver cirrhosis. A multicenter collaborative study.. *Intervirolgy* Volume: 51 Suppl 1 (2008-01-01) p. 17-26.
- 47) 横井英人、福田浩之、露口利夫、松谷正一、税所宏光 腹部超音波検査に関するオントロジーの開発. *超音波医学*2008; 25: 416-427
- 48) Matsutani S, Mizumoto H Aneurysm of the left gastric vein in a patient with portal hypertension. *Journal of Medical Ultrasonics* 2008; 35: 141-143
- 49) Huet PM, Vincent C, Deslaurier J, Cote J, Matsutani S, Boileau R, Huet-Van Kerckvoordes J Portal hypertension and primary biliary cirrhosis: Effect of long-term ursodeoxycholic acid treatment. *Gastroenterology* 2008; 135: 1552-1560
- 50) Inokuma T, Eguchi S, Tomonaga T, Miyazaki K, Hamasaki K, Tokai H, Hidaka M, Yamanouchi K, Takatsuki M, Okudaira S, Tajima Y, Kanematsu T. Acute Deterioration of Idiopathic Portal Hypertension Requiring Living Donor Liver Transplantation: A Case Report. *Dig Dis Sci.* 2008 Oct 31.
- 51) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Tajiri T. Partial splenic embolization. *Hepatology Reserch* 38; 225-233: 2008

2. 学会発表

- 1) Moriyasu F Maker Seminar: Toshiba medical systems Co./Hitachi medical Co./Aloka Co./GE Yokokawa medical systems Co.(Chair)
10th International Symposium on Ultrasound Contrast Imaging(2008.12.13-2008.12.14)Tokyo, Japan
- 2) Hirokawa T Session3: Basics of new technology for ultrasound contrast imaging (Chairs)
10th International Symposium on Ultrasound Contrast Imaging (2008.12.13-2008.12.14) Tokyo, Japan Burns PN*
- 3) Tanaka K*, Imai Y Abdominal 3 (Chairs) 10th International Symposium on Ultrasound Contrast Imaging(2008.12.13-2008.12.14) Tokyo, Japan
- 4) Moriyasu, F Clinical development of CE-US in Japan(招待講演) Chateau Luchey-Halde Conference (2008.6.10) Merignac Bordeaux, France
- 5) Yamada M, Sano T, Ichimura S, Murashima E, Taira J, Metoki R, Furuichi Y, Imai Y, Moriyasu F Four-dimensional ultrasound and contrast-enhanced four-dimensional ultrasound of liver tumors 10th International Symposium on Ultrasound Contrast Imaging (2008.12.13-2008.12.14) Tokyo, Japan
- 6) Shiraishi J*, Sugimoto K, Kamiyama N*, Moriyasu F, Doi K* Computer-aided diagnosis for classification of focal liver lesions on contrast-enhanced ultrasonography:image feature extraction and characterization of vascularity patterns SPIE Medical Imaging (2008.2.16-2008.2.21) San Diego, CA USA
- 7) Furuichi Y, Ichimura S, Metoki R, Taira J, Sugimoto K, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F The chronological analysis of hepatic vein arrival times of ultrasound contrast agents reveal the hepatic hemodynamic changes induced by treatment of Gastric Varices"
"2008 AIUM Annual Convention(2008.3.12-2008.3.15)San Diego, USA"
- 8) Ichimura S, Furuichi Y, Metoki R, Sugimoto K, Taira J, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F Diagnosis of portal vein thrombosis with contrast ultrasonography using a maximum-intensity projection technique,micro flow imaging "2008 AIUM Annual Convention(2008.3.12-2008.3.15) San Diego, USA
- 9) Ichimura S, Furuichi Y, Metoki R, Sugimoto K, Taira J, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F Portal hypertension and vascular diseases of the liver:Diagnosis of portal vein thrombosis with contrast ultrasonography using maximum intensity projection technique, micro flow imaging(MFI) "Digestive Disease Week(AGA) (2008.5.17-2007.5.22)San Diego, USA"
- 10) Metoki R, Furuichi Y, Ichimura S, Sano T, Murashima E, Taira J, Sugimoto K, Yanagisawa K, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F Portal hypertension and vascular diseases of the liver:Three-dimensional CT(3D-CT) following contrast medium injection via a peripheral vein of the lower limb improves diagnostic capability of Budd-Chiari Syndrome "Digestive Disease Week(AGA) (2008.5.17-2007.5.22)San Diego, USA"
- 11) Furuichi Y, Ichimura S, Metoki R, Taira J, Sugimoto K, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F Portal hypertension:Esophageal varices recur less frequently in elderly than in younger patients "Digestive Disease Week (AASLD) (2008.5.17-2007.5.22)San Diego, USA"
- 12) Furuichi Y, Kawai T, Ichimura S, Metoki R, Taira J, Sugimoto K, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F Endoscopic technology: Usefulness of transnasal endoscopy with

- FICE for diagnosis of recurrent esophageal varices "Digestive Disease Week(ASGE) (2008.5.17-2007.5.22) San Diego, USA"
- 13) Furuichi Y, Ichimura S, Metoki R, Taira J, Sugimoto K, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F Wireless capsule/transabdominal U.S.:Real-time analysis of the hepatic vein arrival times of ultrasound contrast agents reveals hepatic hemodynamic changes induced by the treatment of gastric varices "Digestive Disease Week (AGA) (2008.5.17-2007.5.22) San Diego, USA"
 - 14) Ichimura S, Furuichi Y, Sugimoto K, Miyata Y, Sano T, Murashima E, Taira J, Metoki R, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F Contrast-enhanced ultrasonography using maximum intensity projection technique, micro flow imaging (MFI) is useful for diagnosis of portal vein thrombosis 16th United European Gastroenterology Week "UEGW 2008" (2008.10.18-2008.10.22) Vienna,Austria
 - 15) Miyata Y, Furuichi Y, Metoki R, Ichimura S, Sano T, Murashima E, Taira J, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F The novel diagnostic technique of Budd-Chiari syndrome using three-dimensional CT (3D-CT) injected contrast medium from the lower limb 16th United European Gastroenterology Week "UEGW 2008" (2008.10.18-2008.10.22) Vienna,Austria
 - 16) Furuichi Y, Ichimura S, Miyata Y, Metoki R, Sano T, Murashima E, Taira J, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F The features of liver cirrhosis in elderly patients-esophageal varices recur less frequently in elderly than in younger patients 16th United European Gastroenterology Week "UEGW 2008" (2008.10.18-2008.10.22) Vienna,Austria
 - 17) Furuichi Y, Ichimura S, Miyata Y, Metoki R, Sano T, Murashima E, Taira J, Imai Y, Yamada M, Nakamura I, Kawai T, The treatment of gastric varices in patients with liver cirrhosis normalizes intrahepatic Hemodynamics-from real-time analysis of the hepatic vein arrival time by contrast enhanced ultrasonography 16th United European Gastroenterology Week "UEGW 2008" (2008.10.18-2008.10.22) Vienna,Austria
 - 18) Furuichi Y,Kawai T, Ichimura S, Miyata Y, Metoki R, Sano T, Murashima E, Taira J, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F Usefulness of transnasal endoscopy with fice for diagnosis of recurrent esophageal varices 16th United European Gastroenterology Week "UEGW 2008" (2008.10.18-2008.10.22) Vienna,Austria
 - 19) Ichimura S, Furuichi Y, Miyata Y, Metoki R, Sano T, Murashima E, Taira J, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F, Kawai T Endoscopy with fice is useful in early diagnosis of recurrent esophageal varices 16th United European Gastroenterology Week "UEGW 2008" (2008.10.18-2008.10.22) Vienna,Austria
 - 20) Nakamura I, Ochiai K*, Moriyasu F, Imawari M* Impairment of natural killer cell activity of lymphocytes in chronic hepatitis C patients owing to decreased frequency of CD56dim NK cells in peripheral blood"The 59th annual meeting of the American Association for the study of liver diseases(The Liver Meeting 2008)(2008.10.31-2008.11.4) San Francisco, USA"
 - 21) Moriyasu F Diagnosis and treatment of portal hypertension: Morphological and quantitative evaluation of hemodynamic changes followed by IVR treatment of portal hypertension 7th JSH Single Topic Conference "Hepatic Hemodynamic Disorder"

- (2008.11.22) Fukuoka, Japan
- 22) Rexiati M, Moriyasu F, Hirokawa T
Phagocytosis of ultrasound contrast agents and diagnostic low intensity insonation increased the expression of heat shock protein 70 in liver macrophages (kupffer cells) 10th International Symposium on Ultrasound Contrast Imaging (2008.12.13-2008.12.14) Tokyo, Japan
 - 23) Liu GJ, Moriyasu F, Hirokawa T, Rexiati M, Yamada M, Imai Y Can contrast-enhanced ultrasound do more in radiofrequency ablation treatment in liver? 10th International Symposium on Ultrasound Contrast Imaging (2008.12.13-2008.12.14) Tokyo, Japan
 - 24) Liu GJ, Lu MD*, Xu HX*, Xie XY*, Moriyasu F Will the echogenicity of focal liver lesion and liver background on baseline grey scale ultrasound interfere with the diagnostic performance of contrast-enhanced ultrasound? 10th International Symposium on Ultrasound Contrast Imaging (2008.12.13-2008.12.14) Tokyo, Japan
 - 25) 今井康晴 造影超音波 (効果判定・他) (座長) 第14回肝血流動態イメージ研究会 (2008.1.26-2008.1.27) 横浜
 - 26) 森安史典、今井 裕* 肝1 (座長) 第16回クリニカル・ビデオフォーラム：動画でみせる診断・治療の breakthrough (2008.2.9)
 - 27) 森安史典 特別講演：肝癌外科治療の現況と私どもの取り組み (座長) 第44回臨床肝臓懇話会 (2008.3.8) 東京
 - 28) 中村郁夫 座長 第44回臨床肝臓懇話会 (2008.3.8) 東京
 - 29) 中村郁夫 肝症例4 (座長) 第94回日本消化器病学会総会 (2008.5.8-2008.5.10) 福岡
 - 30) 今井康晴 その他 (座長) 第299回日本消化器病学会関東支部例会 (2008.5.17) 前橋
 - 31) 田中幸子*、森安史典 シンポジウム：画像診断に与えた造影超音波のインパクト (座長) 日本超音波医学会第81回学術集会 (2008.5.23-2008.5.25) 神戸
 - 32) 森安史典 ランチョンセミナー：4Dイメージングの腹部・表在領域における臨床将来展望 新しい機能評価 (座長) 日本超音波医学会第81回学術集会 (2008.5.23-2008.5.25) 神戸
 - 33) 森安史典 (消化器・中上級) 腹部領域における3D・4DUSの現状 (座長) 日本超音波医学会教育委員会主催第7回教育セッション (2008.5.23-2008.5.24) 神戸
 - 34) 森安史典 教育講演：第2世代超音波造影剤による内視鏡的超音波検査 (CE-EUS) の開発と臨床応用 (司会) 第75回日本消化器内視鏡学会総会 (2008.5.24-2008.5.26) 横浜
 - 35) 森安史典 デモンストレーション：腹部救急疾患における超音波検査の要点 (座長) 日本超音波医学会超音波診断講習会—腹部救急の診断— (2008.8.23) 横浜
 - 36) 今井康晴 肝胆膵・血管領域 (座長) 日本超音波医学会超音波診断講習会—腹部救急の診断— (2008.8.23) 横浜
 - 37) 村島直哉*、森安 史典 シンポジウム：門脈圧亢進症における画像診断の進歩 (司会) 第15回日本門脈圧亢進症学会総会 (2008.11.20-2008.11.21) 福岡
 - 38) 森安史典、住野泰清* ワークショップ：造影超音波による肝疾患診療の進歩 (司会) 第37回日本肝臓学会東部会 (2008.12.03-2008.12.04) 東京
 - 39) 杉本勝俊、白石順二*、森安史典 肝癌の組織学的分化度診断と生物学的悪性度の予知：造影超音波 MFI による肝癌の分化度悪性度診断 (シンポジウム) 第14回肝血流動態イメージ研究会 (2008.1.26-2008.1.27) 横浜
 - 40) 山田昌彦 造影超音波法の工夫：4D超音波によるRFAの治療ガイドと効果判定 (パネルディスカッション) 第24回超音波ドブラ研究会 (2008.3.8) 東京
 - 41) 森安史典 造影超音波検査の技術革新 (技術活用セミナー) 日本放射線技術学会第64回総会学

- 術大会 (2008.4.4-2008.4.6) 横浜
- 42) 古市好宏、市村茂輝、森安史典 肝癌合併食道胃静脈瘤の治療指針：肝細胞癌を伴った孤立性胃静脈瘤破裂に対する CA 併用 EIS の有用性 (シンポジウム) 第75回日本消化器内視鏡学会総会 (2008.5.24-2008.5.26) 横浜
- 43) 市村茂輝、古市好宏、目時 亮、森安史典 内視鏡発赤所見 (RC) の標準化(要望演題) 第3回静脈瘤治療標準化研究会 (2008.5.26) 横浜
- 44) 森安史典 造影超音波による肝癌の診断と治療支援 (特別講演) "第50回京都肝疾患懇話会 (2008.7.5) 京都"
- 45) 森安史典 マイクロバブル超音波造影剤の基礎と臨床—現状と展望— (講師) 第5回気泡・泡活用技術調査研究委員会 (2008.8.25) 東京
- 46) 森安史典 造影超音波による肝血行異常の診断—腫瘍性疾患とびまん性疾患— (特別講演) 第21回東北食道・胃静脈瘤硬化療法研究会 吾妻シンポジウム (2008.9.6) 福島
- 47) 森安史典 造影の基礎と装置条件：装置条件の最適化—説得力のある画像を撮るために— (講師) 造影超音波講習会—造影超音波の基礎から撮像・読影の実際まで— (2008.9.7) 東京
- 48) 森安史典 造影の臨床と読影の仕方：肝臓の造影超音波—血管相の上手な撮り方と読影の仕方 / クッパー相の上手な撮り方と読影の仕方— (講師) 造影超音波講習会—造影超音波の基礎から撮像・読影の実際まで— (2008.9.7) 東京
- 49) 山田昌彦 造影の臨床と読影の仕方：造影 3D、4D超音波の臨床応用/動画による造影超音波臨床例の供覧 (講師) 造影超音波講習会—造影超音波の基礎から撮像・読影の実際まで— (2008.9.7) 東京
- 50) 今井康晴 造影の臨床と読影の仕方：造影 RVS による肝癌の治療支援/参加者の診断力テストと正解の解説 (講師) 造影超音波講習会—造影超音波の基礎から撮像・読影の実際まで— (2008.9.7) 東京
- 51) 中村郁夫、森安史典、井廻道夫* 肝炎ウイルス感染と免疫：C型慢性肝炎・肝硬変症例における Natural Killer 細胞活性に関する検討 (シンポジウム) 第12回日本肝臓学会大会 (2008.10.1-2008.10.3) 東京
- 52) 古市好宏、河合 隆、森安史典 通常スコープと細径スコープの臨床使用：食道静脈瘤治療における経鼻内視鏡下 APC 法の可能性 (パネルディスカッション) 第76回日本消化器内視鏡学会総会・第46回日本消化器がん検診学会大会合同 (2008.10.1-2008.10.4) 東京
- 53) 古市好宏、河合 隆、市村茂輝、宮田祐樹、目時 亮、佐野隆友、山本 圭、村嶋英学、平良淳一、山田昌彦、今井康晴、森安史典 門脈圧亢進症における画像診断の進歩：再発性食道静脈瘤に対する FICE 併用経鼻内視鏡検査の位置づけ (シンポジウム) 第15回日本門脈圧亢進症学会総会 (2008.11.20-2008.11.21) 福岡
- 54) 古市好宏、市村茂輝、宮田祐樹、目時 亮、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、柳澤京介、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 B-RTO は肝機能を改善するか？：肝硬変における胃静脈瘤の治療が肝内循環動態を正常化させる可能性～造影超音波検査による経時的肝静脈到達時間の検討から～ (パネルディスカッション) 第15回日本門脈圧亢進症学会総会 (2008.11.20-2008.11.21) 福岡
- 55) 宮田祐樹、古市好宏、市村茂輝、佐野隆友、平良淳一、目時 亮、柳澤京介、山田昌彦、今井康晴、森安史典 門脈圧亢進症に対する薬物療法：肝硬変症に合併した門脈血栓症の3例 (ワークショップ) 第15回日本門脈圧亢進症学会総会 (2008.11.20-2008.11.21) 福岡
- 56) 市村茂輝、古市好宏、宮田祐樹、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、目時 亮、山田昌彦、今井康晴、森安史典 静脈瘤に対するヒストアクリルの注入法：孤立性胃静脈瘤出血に対する当科における CA (シアノアクリレート) 注入法～肝細胞癌合併例の検討から～ (ビデオワークショップ) 第15回日本門脈圧亢進症学会総会 (2008.11.20-2008.11.21) 福岡
- 57) 古市好宏、市村茂輝、目時 亮、佐野隆友、村

- 嶋英学、平良淳一、杉本勝俊、柳澤京介、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 食道静脈瘤に対する予防的内視鏡的治療の有用性と安全性～高齢者の検討から～第94回日本消化器病学会総会（2008.5.8-2008.5.10）福岡
- 58) 市村茂輝、古市好宏、目時 亮、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、杉本勝俊、柳澤京介、清水雅文、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 胃静脈瘤に対する B-RTO 後に門脈血栓を生じた2例第94回日本消化器病学会総会（2008.5.8-2008.5.10）福岡
- 59) 古市好宏、河合 隆、市村茂輝、目時 亮、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、大島敏裕、杉本勝俊、釜本寛之、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 再発性食道静脈瘤診断における FICE 併用経鼻内視鏡検査の有用性についての検討第75回日本消化器内視鏡学会総会（2008.5.24-2008.5.26）横浜
- 60) 市村茂輝、古市好宏、山田昌彦、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、目時 亮、杉本勝俊、柳澤京介、清水雅文、今井康晴、中村郁夫、森安史典 門脈血行異常の診断における造影4D超音波検査の有用性 第44回日本肝臓学会総会（2008.6.5-2008.6.6）愛媛
- 61) 釜本寛之、工藤幸正、堀部俊哉、森安史典 部分的碑動脈塞栓術（PSE）により門脈血栓を生じた肝細胞癌症例 第161回東京医科大学医学学会総会（2008.6.7）東京
- 62) 市村茂輝、杉本勝俊、宮田祐樹、目時 亮、古市好宏、森安史典 造影超音波を用いた肝内血行異常の検討 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業門脈血行異常症に関する調査研究（H20-難治-一般-26）平成20年度第一回班会議（2008.7.11）東京
- 63) 古市好宏、市村茂輝、宮田祐樹、目時 亮、森安史典 再発性食道静脈瘤診断におけるFICE併用経鼻内視鏡検査の位置づけ 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業門脈血行異常症に関する調査研究（H20-難治-一般-26）平成20年度第一回班会議（2008.7.11）東京
- 64) 池内信人、糸井隆夫、祖父尼淳、糸川文英、石井健太郎、辻修二郎、土屋貴愛、栗原俊夫、柳澤文彦、森安史典 豚グルカゴノーマの1例 第49回日本消化器画像診断研究会（2008.8.29-2008.8.30）東大阪
- 65) 今井康晴、佐野隆友、村嶋英学、市村茂輝、平良淳一、目時 亮、杉本勝俊、古市好宏、清水雅文、柳澤京介、山田昌彦、中村郁夫、森安史典 肝細胞癌に対してRFAを施行した肝硬変患者における栄養療法—栄養士との協力による栄養アセスメントの試み 第12回日本肝臓学会大会（2008.10.1-2008.10.3）東京
- 66) 市村 茂輝、古市 好宏、目時 亮、佐野隆友、村嶋 英学、平良 淳一、杉本 勝俊、山田 昌彦、今井 康晴、中村 郁夫、酒井 義浩、森安 史典、河合 隆 食道静脈瘤治療前後における FICE 併用内視鏡検査の有用性 第76回日本消化器内視鏡学会総会（2008.10.1-2008.10.4）東京
- 67) 宮田祐樹、古市好宏、市村茂輝、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、目時 亮、柳澤京介、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 食道離断術後に発症した再建胃食道静脈瘤の一例 第87回日本消化器内視鏡学会関東地方会（2008.12.12-2008.12.13）東京
- 68) Ichimura S, Furuichi Y, Sugimoto K, Miyata Y, Sano T, Murashima E, Taira J, Metoki R, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F Contrast-enhanced ultrasonography using maximum intensity projection technique, micro flow imaging (MFI) is useful for diagnosis of portal vein thrombosis 16th United European Gastroenterology Week "UEGW 2008" (2008.10.18-2008.10.22) Vienna, Austria
- 69) Furuichi Y, Kawai T, Ichimura S, Miyata Y, Metoki R, Moriyasu F. Usefulness of transnasal endoscopy with FICE for diagnosis of recurrent esophageal varices. Digestive